

まちづくりワークショップ

～こうしたらどう？「市政への市民参加」～

グループ発表

時間の都合もあり、全6グループの内、3つのグループから発表いただきました。
(個人の意見・感想等は、「振り返り一覧」にまとめてあります)

- まず、ファシリテーター、ワークショップ等の言葉が分りにくい。言葉の部分ですでに壁が出来てしまっている。
- 参加しづらいのは、今までの市の積み重ねが原因ではないか。選ばれた人だけが参加していて、一般の市民が自主的に参加する機会が無い。どこへ行っても同じような顔ぶれが揃っていて入りにくい。
- 1,000人に案内して、参加が20人程度というのは少ない。2%という数字を上げていくことが大切。
- 市の情報発信がわかりづらいので参加が少ない。
- 市民の意見を欲しいというのなら、市長がこういう場に出席して話を聞くべき。

◇市政に対する意見はどこに言えばいいのか。それは市議員ではないか。

◇以前、市民が作った自治基本条例に関する提言書に議会基本条例制定が盛り込まれたにもかかわらず、実際の条例には書かれなかった。市民が作った素案の中から都合の悪いことが消されてしまったような気がする。これで、市議員は、自治基本条例に書いてあるように「市民の意志が市政に適切に反映されるよう努め」といえるだろうか。こんな状態で市民参加と言われても「？」だ。

▽今回のテーマは大き過ぎる。まちづくりへの意見を聞くときは、「本町」、「引きこもり」、「福祉」のように、テーマをピンポイントとするとよい。また、聞く相手を年代別に集めたり、頻繁に聞く機会を設けたりするとよい。

▽一部の人間だが、まちづくりを考えている人（市民参加している人）がいるということを議会も行政も市民も知るべき。また、こういう人たちがいることを中学生、高校生に浸透させていけば、まちづくりも発展するのではないか。

▽参加の呼びかけの方法をみんなで工夫すべき。

▽企画政策課は、他の課から疎まれながらも「市民参加」にがんばっていると思う。

▽広報はわかりやすい言葉で伝えてほしい。

▽「市民参加」を浸透させるという意味では、モーニングを利用して、年配の方や子どもに、まちづくりに取り組んでいるさまざまな例を知ってもらってはどうか。